

「語りたくなるまち名古屋」の実現をめざして

名古屋市歴史まちづくり戦略



名古屋市

名護屋図（名古屋市博物館蔵）

「語りたくなるまち名古屋」の実現を目指して



名古屋には、古代にこの地域一帯を支配した「尾張氏」ゆかりの古墳や神社が、熱田周辺を中心に伝承とともに残されています。また、中世には信長・秀吉・家康といった三英傑をはじめとした戦国武将が活躍し、市内各所に桶狭間古戦場などの史跡が残されています。

江戸期には、名古屋は「御三家筆頭・尾張徳川家」の居城のある城下町として栄え、その後、近代から現在に至るまで、濃尾地震や戦災、伊勢湾台風などの困難を市民の力で一つ一つ乗り越えながら、大都市として発展してきました。

このように、名古屋は、古代熱田から中世の武将の活躍、清須越し、近代都市化、戦災復興と他の都市と比べても大変長い歴史を積み重ねてきたまちであり、まさに市民にとって大きな誇りであると思います。

昨年（2010年）、名古屋は開府400年という大きな節目の年を迎えました。市内各所で記念イベントが開催され、市民の皆様と一緒に名古屋の歴史・文化を再度見つめ直し、地域への愛着を深めることができました。

また、江戸期の町並みが残る有松では、取り壊しの危機にあった町屋が市民の皆様の寄付によって再生されるという素晴らしい出来事もありました。

本市では、こうした地域・市民主体の取組みを一層推し進め、地域の歴史的資源を積極的に活用した戦略的なまちづくりに取り組むため、開府400年の次の100年（開府500年）を見据え、本市が取り組むべき歴史まちづくりの中長期的な方針として、このたび、「名古屋市歴史まちづくり戦略」を策定いたしました。

この戦略では、市民それぞれが自分たちのまちの歴史に誇りを持ち、身近なまちの歴史について語り合い、歴史まちづくりを進めていくという観点から、「語りたくなるまち名古屋」の実現を目標として掲げております。

「歴史的資源をみんなでまもり・いかし・つなぐ」という協働理念のもと、市民一人一人が主人公となって歴史まちづくりを推進し、感性を揺さぶり、人を惹きつける「歴史に残る街・ナゴヤ」を一緒に創り上げていきましょう。

なお、この戦略の策定にあたり、熱心にご議論いただきました歴史まちづくり戦略有識者懇話会の委員の方々、貴重なご意見をお寄せいただいた市民の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

平成23年7月

名古屋市長 河村 たかし

目 次

第1章 歴史まちづくり戦略の策定にあたって

- 1 戦略策定の趣旨 2
- 2 戦略の位置づけ 3

第2章 名古屋のまちの成り立ち

- 1 尾張名古屋の骨格形成期 6
- 2 世界に誇る産業文化都市の確立期 14

第3章 歴史まちづくり戦略

- 1 戦略の基本理念 22
- 2 戦略推進の視点 23
- 3 戦略の枠組み 24
- 4 歴史まちづくり戦略
 - 戦略Ⅰ 尾張名古屋の歴史的骨格の見える化 26
 - 戦略Ⅱ 世界の産業文化都市・名古屋のまちづくり資産を活かす 57
 - 戦略Ⅲ 身近な歴史に親しむ界限づくり 73
 - 戦略Ⅳ 地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みづくり 81

歴史まちづくり戦略策定に寄せて

- 策定プロジェクトチーム座長メッセージ 94
- 有識者懇話会座長メッセージ 96
- 有識者懇話会委員による歴史まちづくりコラム 97

資料編

- 1 策定経緯 110
- 2 ネット・モニターアンケートの概要 114
- 3 歴史的界限一覧 118

第1章 歴史まちづくり戦略の 策定にあたって

1 戦略策定の趣旨

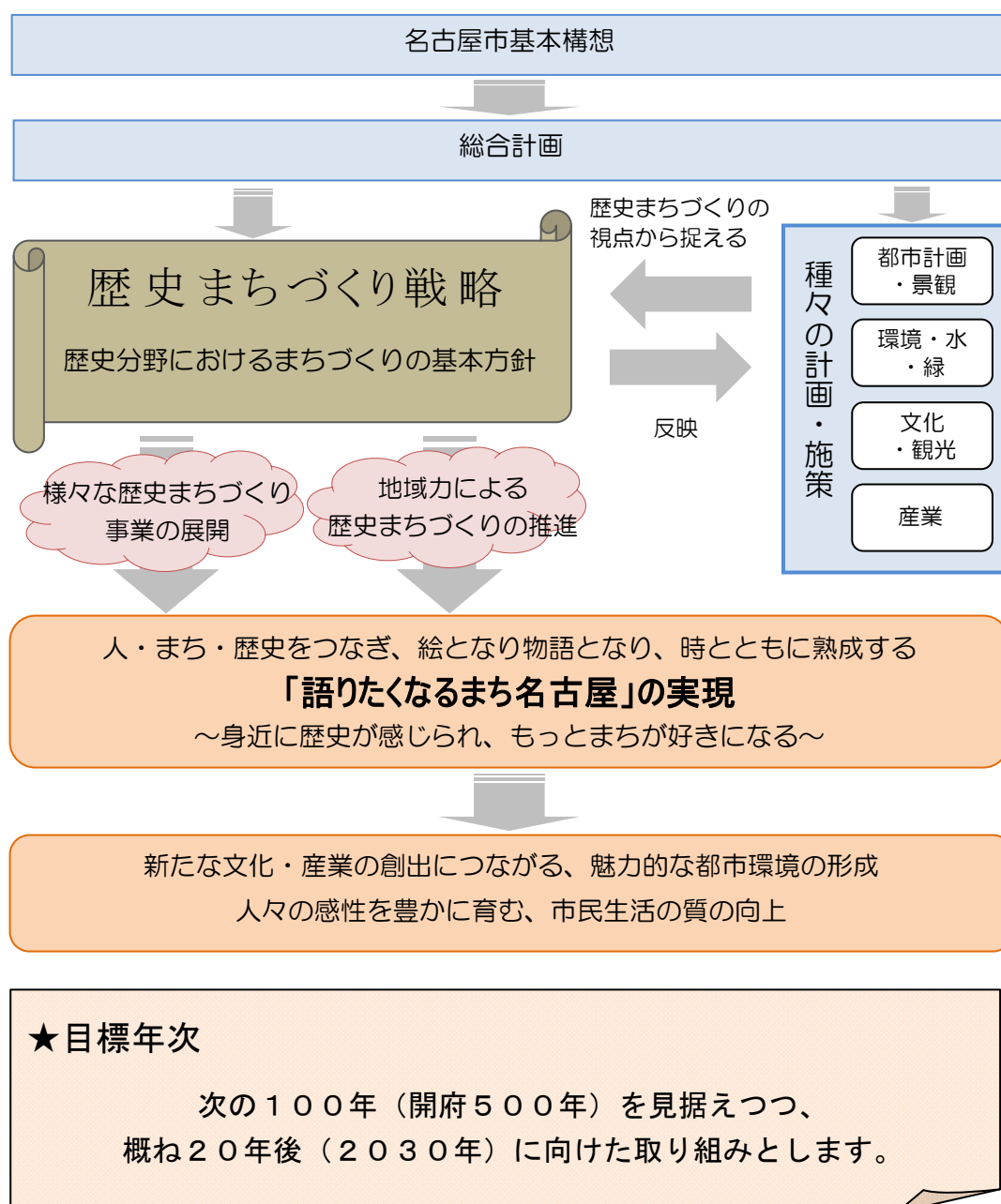
- ・名古屋は、古代熱田における文化の興隆、近世城下町としての都市の形成と発展、近代における産業都市化による大都市への飛躍など、幾多の歴史を積み重ねてきたまちです。
- ・しかしながら、戦災によって、まちのシンボルであった名古屋城天守閣をはじめ、城下・熱田の大半を焼失してしまいました。また、名古屋は市街地の大半を区画整理によって整備される一方、失われた歴史的資源も少なくありません。
- ・語り継がれる歴史の積み重ねは多いものの、現在の市街地において歴史を物語る町並みや風景は多くは残っておらず、身近にまちの歴史が感じられにくい都市環境ともいえます。

- ・一方、都市の活性化においては、魅力的な都市環境の形成や、人々の創造力から生み出される知的財産の重要性が増しています。これに伴い、都市独自の「歴史」を活かした、人々の感性を引き出す都市環境の形成や、文化・産業の創出が、新たな都市課題となってきました。
- ・また、経済が発展し、社会の成熟化が進むなかで、都市環境に対する人々の意識も、これまでの利便性・機能性を重視する考え方から、生活の質（自然環境との調和や、人々の感性や創造性を大切に健康で文化的な生活）を重視する考え方に変化してきました。こうした市民意識の変化のなかで、都市の歴史的資源の保存・活用を求めるニーズも高まってきました。

- ・こうしたなか、世界に誇れる魅力的な都市環境を形成するためには、名古屋が持つ独自の歴史魅力を引き出し、これを「資源」として位置づけ、これまでの歴史の流れを尊重してまちづくりに戦略的に活用するとともに、名古屋の歴史を国内外に広く発信していくことが求められています。
また、地域に残された歴史的資源を積極的に保存・活用することにより、身近に歴史が感じられるまちづくりに取り組むとともに、市民それぞれがまちに誇りを持ち、次世代にまちの歴史を語り継いでいくことが大切と考えられます。
- ・開府400年（2010年）を契機に、これまでの名古屋の歴史の積み重ねを振り返るとともに、開府500年を見据えながら、地域住民・行政をはじめとする様々な主体が協働して、身近に歴史が感じられるまちづくりに積極的・戦略的に取り組むために、歴史分野におけるまちづくりの基本方針として、「歴史まちづくり戦略」を策定します。

2 戦略の位置づけ

- ・身近に歴史が感じられるまちづくりに積極的・戦略的に取り組むために、市政の基本理念である名古屋基本構想や、総合計画をふまえ、歴史分野におけるまちづくりの基本方針として「歴史まちづくり戦略」を策定します。
- ・「歴史まちづくり戦略」では、主として、「地域の歴史的資源を活かした、魅力的な都市環境の維持・形成」に取り組むこととし、都市計画、環境、文化、観光、産業などの部門との整合・連携を図りながら、地域住民・行政をはじめとする様々な主体によるまちづくりの展開を想定しています。
- ・目標年次は、次の100年（開府500年）を見据えつつ、概ね20年後（2030年）に向けた取り組みとします。



1 戦略策定の趣旨

- ・名古屋は、古代熱田における文化の興隆、近世城下町としての都市の形成と発展、近代における産業都市化による大都市への飛躍など、幾多の歴史を積み重ねてきたまちです。
- ・しかしながら、戦災によって、まちのシンボルであった名古屋城天守閣をはじめ、城下・熱田の大半を焼失してしまいました。また、名古屋は市街地の大半を区画整理によって整備される一方、失われた歴史的資源も少なくありません。
- ・語り継がれる歴史の積み重ねは多いものの、現在の市街地において歴史を物語る町並みや風景は多くは残っておらず、身近にまちの歴史が感じられにくい都市環境ともいえます。

- ・一方、都市の活性化においては、魅力的な都市環境の形成や、人々の創造力から生み出される知的財産の重要性が増しています。これに伴い、都市独自の「歴史」を活かした、人々の感性を引き出す都市環境の形成や、文化・産業の創出が、新たな都市課題となってきました。
- ・また、経済が発展し、社会の成熟化が進むなかで、都市環境に対する人々の意識も、これまでの利便性・機能性を重視する考え方から、生活の質（自然環境との調和や、人々の感性や創造性を大切に健康で文化的な生活）を重視する考え方に変化してきました。こうした市民意識の変化のなかで、都市の歴史的資源の保存・活用を求めるニーズも高まってきました。

- ・こうしたなか、世界に誇れる魅力的な都市環境を形成するためには、名古屋が持つ独自の歴史魅力を引き出し、これを「資源」として位置づけ、これまでの歴史の流れを尊重してまちづくりに戦略的に活用するとともに、名古屋の歴史を国内外に広く発信していくことが求められています。
また、地域に残された歴史的資源を積極的に保存・活用することにより、身近に歴史が感じられるまちづくりに取り組むとともに、市民それぞれがまちに誇りを持ち、次世代にまちの歴史を語り継いでいくことが大切と考えられます。
- ・開府400年（2010年）を契機に、これまでの名古屋の歴史の積み重ねを振り返るとともに、開府500年を見据えながら、地域住民・行政をはじめとする様々な主体が協働して、身近に歴史が感じられるまちづくりに積極的・戦略的に取り組むために、歴史分野におけるまちづくりの基本方針として、「歴史まちづくり戦略」を策定します。

2 戦略の位置づけ

- ・身近に歴史が感じられるまちづくりに積極的・戦略的に取り組むために、市政の基本理念である名古屋基本構想や、総合計画をふまえ、歴史分野におけるまちづくりの基本方針として「歴史まちづくり戦略」を策定します。
- ・「歴史まちづくり戦略」では、主として、「地域の歴史的資源を活かした、魅力的な都市環境の維持・形成」に取り組むこととし、都市計画、環境、文化、観光、産業などの部門との整合・連携を図りながら、地域住民・行政をはじめとする様々な主体によるまちづくりの展開を想定しています。
- ・目標年次は、次の100年（開府500年）を見据えつつ、概ね20年後（2030年）に向けた取り組みとします。

